

## 第16回 西日本国際財団アジア貢献賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

### ■ R K 清水長崎財団

会 長：清水 勝利 氏  
設 立：2011年  
活動地域：フィリピン、長崎県長崎市

日本とフィリピン間で40年に亘り中古船の輸出を行っている清水氏が、フィリピンの教育大臣に面会時に15万2千の教室と260万個の机・椅子が不足していることを知り、第二の祖国であるフィリピンに恩返しをしたいと考え、「百年国家の計は教育にあり」の信念のもと、2011年マニラに財団を設立、学校建設や机・椅子の寄贈活動を始めた。長崎県と連携し、フィリピンの20町、130の公立学校に県内で使用しなくなった机・椅子を3年間で8000個寄贈、これまでに8校の小学校建設支援を行っている。

### ■ 慶南青年カレッジ実行委員会

実行委員長：中野 智昭 氏  
設 立：1992年  
活 動 地 域：韓国、山口県山口市等

委員長である中野氏が、山口県初の韓国国際交流員と韓国・慶南大学で日韓交流アンケート調査を通じ、1993年に「慶南青年塾」として国際交流をスタート。日韓学生が平和と環境をテーマに、毎年相互訪問し、文化理解や交流を深め、既参加者が800人を超える青年活動に育っている。

### ■ 高取地区国際交流推進委員会

会 長：田中 秀次 氏  
設 立：1995年  
活動地域：福岡県福岡市

1995年に開催されたユニバーシアード福岡大会の校区ふれあい事業として、留学生との交流が始まる。福岡市早良区の高取校区自治協議会の一委員会として、日本語教室や日本文化体験を19年間継続し、地域一体となり多文化共生を目指している。

### ■ 袴着 英子 氏

活動開始：1987年  
活動地域：中国大連市等、韓国大邱市、福岡県北九州市

1987年、服飾技術指導者として北京市化学協会から招聘され訪中。技術習得向上に必死になる現地の方々に感銘を受ける。その後は、中国服飾技術向上の為、大連市を中心に訪中し技術指導や学生たちの短期ホームステイ受け入れなど、無償で27年間に亘り継続している。

### ■ フレンズ国際ワークキャンプ九州委員会

代 表 者：大塚 康平 氏  
設 立：2004年  
活動地域：フィリピン、中国、福岡県福岡市

第二次世界大戦後、アメリカから日本に入ってきたワークキャンプ運動が1950年代より日本独自のフレンズ国際ワークキャンプ活動として展開。九州支部も九州大学、西南学院大学等の学生主体で設立され、国内外での活動を開始。フィリピンキャンプでは、貧困問題を抱える農村部において現地NGOと水道修理等インフラ整備を行う。また中国キャンプでは、ハンセン病患者の社会復帰を目指す快復村にて村人との共同生活を送りながら、ケアや啓蒙活動に取り組んでいる。

### ■ NPO 法人れんげ国際ボランティア会

会 長：川原 英照 氏  
設 立：1980年  
活動地域：タイ、ミャンマー、インド、スリランカ、熊本県玉名市

カンボジア内戦によるカンボジア難民キャンプへの支援をきっかけに、タイ、カンボジアをはじめ、貧困、差別といった厳しい状況に置かれた人々に対し教育中心の支援活動を開始。タイではスラムを中心に子どもたちに読み聞かせ等の活動を行う。また、スマトラ沖地震による大津波で親を亡くした子どもたちに奨学金を贈呈、幼少期の子どもたちの健全な育成を図るため保育士のスキルアップトレーニングやチベット難民居留地において約200棟の家屋改修事業、給水設備の建設なども行う。

(注)上記6団体・個人は第16回アジア貢献賞に推薦された18団体、個人の中から候補者選考委員会（第1次審査）にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。（五十音順）